

934
孟法師碑

附枯樹賦



始



新昭
選味
碑
法
帖
大
觀

第 第
四 一
卷 輯

褚河南書孟法師碑

孟法師碑銘（史邑節臨）

我高祖以大聖締基功踰覆載皇上
以欽明慕歷道冠犧農崇三清以緯民
懷九仙而濟俗天地交泰中外和平法
師維持科戒弘宣經典時歷夷險懷趙
壁而無玷年殊盛衰鼓吳濤而不竭跡
均有待心叶無為循大小於天倪既齊
椿菌忘壽夭於物化寧辯彭殤而靈氣
有感仙骨夙著

節臨孟法師碑銘



殷仲文風流儒雅海內知名代異時移出為東陽太守
 常忽之不樂願庭槐而歎曰此樹婆娑生意盡矣至如白
 鹿貞松青牛文梓根盤魄山崖表裏桂河事而銷亡
 桐何為而半死昔之三河徒殖九畹移根開花建始之殿
 落寶雕陽之園聲含懈谷曲抱雲門將鷄集鳳比翼巢
 駕眩風亭而唳鶴對月峽而吟猿乃有拳曲擁腫盤場
 反覆態彰願取魚龍起伏節豎山連文橫水感匠石
 驚視公輸眩目節旣褚河南枯樹賦

五法師碑銘
 觀夫太陽始旦指燿
 其若馳巨川分派起勃
 解而不息是以主人無



已志天地海六氣列
仙神化履宇宙而遺
萬物與齊魯縉紳束名
教於俄景漢魏高豪桀殉

榮利於窮塗何乎
生於崇朝爭長於龜鶴
秋豪出於未進計於
崑閬者哉若西岱山龍

駕傳神丹之秘訣秦都
鳳祠流洞簫之妙響用
能延頽年於昧谷振朽
骨於玄廬白玉之簡祈

西王而可值青雲之衣
師東陵而易龍豈非度
世之寶術登遐之妙道
焉法師俗姓孟氏諱靜

素江夏安陸人也其先
從里成仁繼跡於孔墨
冬筭表德齊聲於曾閔
是以貽則當世錫類後

昆軒冕之盛既富於天
爵賢明之質獨表於仙
才固以軼仲躬之弈
虞而已哉多而慕道超

然拔俗志在芝桂譬薑
豢於糠秕心繫煙霞方
綺羅於桎梏既而初筭
云畢迨吉有典懿戚託

繼世之援慈親割相離
之情千金甫陳百兩將
戎法師凌霜之操
節於玄冬匪石之誠誓

捐生於白刃素旣難奪
嘉禮遽寢乃脫屣通德
之門絕景集靈之節虔
修經戒長甘蔬菲漱元

氣於停午思輕舉於中
夜若夫金簡玉符之餘
論玄牝道樞之妙旨三
皇內文九鼎丹法莫不

究其條貫猶登山而小
魯踐其戶庭若披雲
而見日先所謂天挺才
明人宗摸楷者已隨高

祖文皇帝聞風而悅徵
赴京師亦既來儀居于
至德之觀公卿虛己士
女翹心於是高視神州

廣開衆妙懸明鏡於講
肆陳鴻鍾於靈壇著錄
之侶升堂者比跡問道
之客及門者成羣雖列

呈仰天津衆山之崇
地軸未足以喻也
我高禔以大聖締基功
踰覆載皇上以欽

明慕歷道冠犧農崇三
清以緯民懷九仙而濟
俗天地交泰中外和平
法師維持科戒弘宣經

典時歷夷險懷趙厲而
無玷年殊盛衰鼓吳濤
而不竭跡均有待心叶
無為循大小於天倪既

齊椿菌忘壽夭於物化
寧辯彭殤而靈氣有感
仙骨夙著金液方授駕
白龍而不及玉棺遽掩

望青鳥之來翔以貞觀
十二年七月十二日遺
形而化春秋九十有七
顏色如生舉體柔弱斯

蓋仙經所謂尸解者也
冤旒惜道門之梁壞縉
紳悼人師之云亡固以
思侔徹樂悲踰輟相有

勅賜以賻
跡霞舉玉京雲開金液
飛廉先路句芒奉璧形
表丹青聲流金石玄風

誰慕允屬賢明翟本
 絕志鶴御依情栖心大
 道接蹟張生三山可陟
 九轉方成亞化人簡高

拾葉
 共七百六十九字
 按拾葉當作拾壹葉文治記
 公博

唐褚河南書京師至德觀主
孟法師碑天下第一本雍正十
有一年歲在癸丑秋九日端午日
琅邪王澍鑒定



褚河南
結字
賦

枯樹賦

殷仲文風流儒雅海內知名代異
時移出為東陽太守清忽不樂
願庭槐而歎曰此樹婆娑生意盡
矣至如白鹿貞松青牛文梓根桓



盤魄山崖表裏桂何事而鎖三桐
何爲而半死昔之三河從殖九畹終
根開苑建始之殿落實隴陽之園
聲吞嶰谷曲抱雲門將鶴集鳳比
翼巢鴛鴦臨風亭而嘆鶴對月峽而吟

後乃有奉曲雍腫盤湯反覆態一窮
顧則魚龍起伏節壑山連文橫水
感匠石驚馬視公輸眩目雕鐫始竟
剗剗仍加平鱗鱗甲以以角確牙重
碎錦片真花珍枝草樹教亂烟霞

若夫松子古度平仲君遷森梢百
頃檜栝千年秦則大夫受職漢則
將軍坐焉莫不苔埋菌壓鳥剝
虫穿迺垂於霜露撼頽於風煙東
海有白木之廟西河有枯桑之社

北陸以揚紫為開南陵以
治小山則藁桂留人扶
繫馬豈獨城陰知柳之上塞
桃林之下善乃山河阻絕飄
別拔本垂淚傷根流血八

膏流斲節橫洞口而歌卧損山
而事折文哀者合體俱碎理
者中心直裂衣戴瘕銜瘡藏
穴木魅踴映山精妖孽况復
不感羈旅無歸未能採芻還

食微沈淪窮老苦沒荆扉
搖落殊暖變衰淮南之木
長年悲斯之謂矣乃為歌曰
章三月火黃河千里槎若
非金谷流園樹即是河陽
一縣花桓大司馬

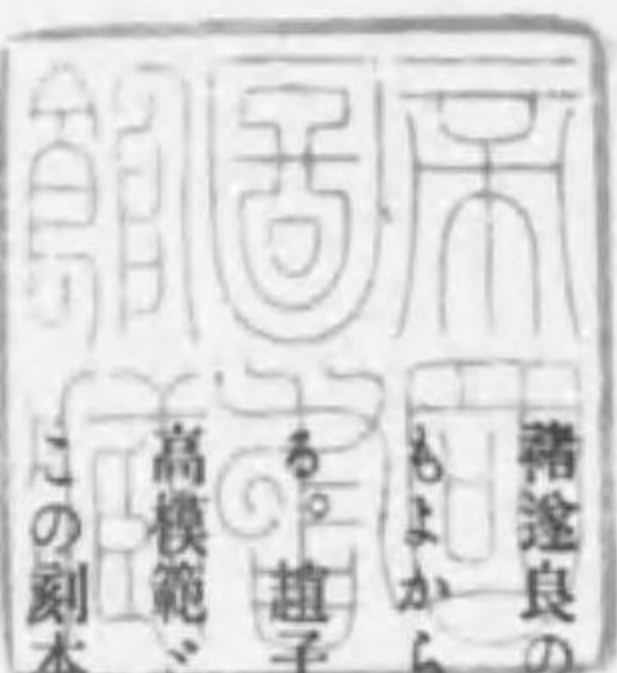
月而歎曰昔年移柳依江潭南今
 採落樓愴江潭樹猶如此人行
 不堪

貞觀四年十月八日為燕國公書

薛伯陸於江字



褚遂良書枯樹賦解說



褚遂良の行書として今に残るものは甚だ少ない。哀册、千字文位のものである。この枯樹賦は先づ褚遂良の行書代表作といつてもよからう。字体倚斜縦横頗る風趣に富んだものである。殊に結構の變化に至つては、他の追隨を許さぬ趣致をもつたものである。趙子昂よく之を臨し、我が松翁の行書亦之に負ふ所甚だ多い様である。王羲之の行書が、矩に入り規に合し、行書格式の最高模範とすれば、褚の行書は、變化精妙、よく格を破つて格に合するの体勢をこつた行書絶好模範といつてよいと思ふ。この刻本他の帖中に輯刻されてゐるものに比して、鋒芒峻險、清勁の筆致をよく帖中に躍動せしめて、得も言はれぬ風趣に富んだものである。褚摸袖珍蘭亭など筆意に共通點を見出し得るも亦嬉しい感じがする。

褚遂良略傳

褚遂良字は登善、杭州錢唐の人、數騎常侍亮の子なり。博く文史に渉り尤も隸書（楷書のことなり）に工なり。父の友歐陽詢甚だ之を重んず。太宗嘗て侍中魏徵に謂つて曰く「虞世南死後人の以つて善を論ずべき者なし」と。徵曰く「褚遂良筆を下す遊勁甚だ王逸少の體を得たり」と。太宗即日召して侍書たらしむ。太宗嘗て御衣の金帛を出し、王羲之の書を購求す。當時能くその眞偽を辨するものなし。褚遂良備きに出所を論じて誤なし。官中書令を拜す。高宗即位して河南郡公に封ぜられ、出でて同州刺史となる。永徽三年徵せられて吏部尚書同中書門下三品に拜せらる。六年潭州都督に左遷され、顯慶二年桂州都督に轉じ又遷州刺史に貶せられ顯安三年六十餘才にして官に卒す。褚遂良の書少なきとき即ち虞世南を服膺し、長じて即ち羲之を祖述す。其の書甚だ剛健を得たり。筆蹟にして今に残るもの左の如し。

楷書 伊闕佛龕碑、孟法師碑、雁塔聖教序、同州聖教序、房玄齡碑、倪寬贊。
 行書 千字文、枯樹賦、哀册。
 草書 陰符經。

枯樹賦釋文

殷仲文風流儒雅。海內知名。代世異時。移出爲東陽太守。常忽忽而不樂。顧庭槐而嘆曰。此樹婆娑。生意盡矣。至如白鹿。貞松。青牛。文梓。根柢盤魄。山崖表裡。桂何事而銷亡。桐何爲而半死。昔之三河徒殖。九畹移根。開花建始之殿。落實睢陽之園。聲含嶰谷。曲抱雲門。將離集鳳。比翼巢鷺。臨風亭而唳鶴。對月峽而吟猿。乃有拳曲擁腫。盤坳反覆。熊彪顧盼。(盼。呵也)魚龍起伏。節豎山連。文橫水蹙。匠石(石工)驚視。公輸(公輸。是木工)眩目。雕鐫始就。剗削仍加。平鱗鏹甲。落角槎牙。重々碎錦。片々眞花。紛披草樹。散亂烟霞。若夫松子古慶。平仲君遷。森梢百頃。槎枿千年。秦則大夫受職。漢則將軍坐焉。莫不苔埋菌壓。鳥剝蟲穿。互垂於霜露。撼頓於風烟。東海有白木之廟。西河有枯桑之社。北陸以楊葉爲關。南陵以梅根作冶。小山則叢桂留人。扶風則長松繫馬。豈獨城臨細柳之上。塞落桃林之下。若乃山河阻絕。飄零離別。拔本垂淚。傷根流血。火入空心。膏流斷節。橫洞口而欬臥。頓山腰(腰。同)而半折。文義者合體俱碎。理正者中心直裂。戴襖銜痲。藏穿抱穴。木魅錫賤。山精妖孽。況復風雲不感。羈旅無歸。未能採葛。還戈食薇。沈淪窮巷。蕪沒荆扉。既傷搖落。殊嗟變衰。淮南云。木葉落。長年悲。斯之謂矣。乃爲歌曰。建章三月。火黃河千里。槎枿若非。金谷滿園。樹卽是。河陽一縣。花桓大司馬聞而嘆曰。昔年移柳。依依溪南。今看搖落。悽愴江潭。樹猶如此。人何以堪。貞觀四年十月八日。爲燕國公書。

孟法師碑解說

孟法師碑は褚遂良の書にして、岑文本の撰文である。唐貞觀十六年に建碑されてゐるが、石己に佚して行字數すら判明しない。翻刻本が二本ある。一は原字に比して字稍大きく、他の一つは原刻文に比して稍小である。皆臨本である。本大觀の孟法師は海内孤本とされてゐる、臨川季氏收藏に係るもので、この原本は今日轉じて、三井家に收藏されてゐる。

褚遂良は、歐陽詢、虞世南と並んで盛唐三大家の一人である。歐陽詢の峻險端直の書風に比して、艶麗雅潤、變化多端、よく初唐書風の半面を代表して、後世書道の指針となつてゐる。

褚遂良の楷書碑には、他にも伊闕佛龕碑、房玄齡碑、雁塔聖教序、同州聖教序等がある。年代から云へば、伊闕佛龕碑に次ぐ若書である。聖教の如く艶麗雅潤はないが方整和暢ながらもその中に古意の掬すべきものがある、字体矩に入り規に合し、初等楷法の模範としては絶好のものである。

この碑は褚遂良の眞面目を發揮したものは言ひ得ぬかも知れない。寧ろ歐陽詢や虞世南に相似する所が多分に含まれてゐる。それだけ初唐書風の共通點を見出し得て、初唐楷法研究の一標的となつて價値のある碑版である。只だ虞歐の如く縦長の形をこらず、扁平の体勢をこつてゐるのは、六朝の風格にならつたものであらう。筆意に往々謙意を含ませて擬遠古厚、楷法入門の參考模範として、歐の九成宮、虞の廟堂碑と、もに初唐三絶と稱しても過言ではなからう。

孟法師碑釋文

觀夫太陽始且指曉。其如馳巨川分流。赴渤澥而不息。是以至人無已。先天地御六氣。列仙神化。隘宇宙而遺萬物。與(物下の與字は語助)齊魯縉紳。束名教於俄景。漢魏豪(碑に高家に從ふは正文なり)榮殉營利。於窮塗(窮途に同じ)何異乎。蜉生於崇(終の假)朝爭長(壽)於龜鶴。秋豪出於末兆。計大於峴閩者哉。若廼岱山龍駕。傳神丹之秘訣(訣の假)秦都鳳祠。流洞簫之妙響。用能延頽年於味谷。振朽骨於玄虛。白玉之簡。祈西王而可值。青雲之衣。師東陵(碑に陵に作るは省文)而易襲。豈非度世之寶術。登避之妙道焉。

師俗姓孟氏。諱靜素。江夏安陸人也。其先(祖)徒里成仁(孟母三遷の故事)繼跡於孔墨。冬筭表德(孟宗の故事)齊聲於會參。是以貽則。當世錫類。後昆軒冕之盛。既富於天爵。賢明之質。獨表於仙才。固以軼仲躬(躬に同じ)之奕。□虞而已哉。

幼而慕道。超然拔俗。志在芝桂。誓蜀蒙於穠穉。心繫煙霞。方綺羅於桎梏。既而初筭云畢。迨吉有典。懿戚託繼世之援。慈親割相離之情。千金甫陳。百兩將戒。法師凌霜之操。必守節於玄冬。匪石之誠。誓捐生於白刃。素樂難奪。嘉禮遽寢(婚嫁を拒絶せるを云ふ)乃脫屣通德之門。絕景集靈之館。虔修戒長。甘蔬菲漱。元氣於停午。思輕舉於中夜。

若夫金簡玉字之餘論。玄牝道攝(攝の假)之妙旨。三皇內文。九鼎丹法。莫不究其條貫。猶登山而小魯。踐其戶庭。若披雲而見日。允所謂天挺才明(明を目旁に作るは正し)人宗摸楷者也。

隋高祖文皇帝聞風而悅。徵赴京師。亦既來(碑は省體に作る)儀居千至德之觀。公卿虛已。士女翹心。於是高視神州。廣

開衆妙。懸明鏡於講肆。陳鴻鐘於靈壇。著錄之侶。升堂者比跡。問道之客。及門者成羣。雖列星□仰。天津衆山之宗地。軸末足以喻也。

我高祖以大聖締基。功踰覆(覆字の上邊を碑の如く作るは省筆なり)載。皇上以欽明纂(纂字は算によりて聲を得莫に作るは非なり)歷道。冠犧農崇。三清以緯民(民字に點あるは非なり)懷(懷字を碑の如く作るは違なり)九仙而濟俗。天地交泰。中外和平。法師維持。研戒(稱は科字の此文なるべし)弘宣經典。時經夷險。懷趙壁而無玷。年殊盛衰。鼓吳濤而不竭。跡均有待。心叶無爲。循大小於天

倪。既齊椿菌。忘壽夭(天字に点あるは贅)於物化。寧辯彭殤。而靈氣有感。仙骨夙著。金液方授。駕白龍而不反。玉棺遽掩。望青鳥之來翔。以貞觀十二年七月十二日。遺形而化。春秋九七有七。顏色如生。舉體柔弱。斯蓋仙經所謂尸解者也。冕旒惜道門之梁壞。縉紳悼人師之云亡。固以思倅。徹樂悲踰。輟相有勅(勅字來旁に作るは違字なり)賜以賻(以下闕文)

□跡霞舉。玉京雲開。金液飛廉。先路句芒。奉形壁表。丹青聲流。金石玄風。誰纂允屬(碑に屬と作るは省の說)賢明濯衣絕志。鶴御(碑に御に從ふは此)依情栖心。大道投躋。長生三山可陟。九轉方成。靈化人間高(銘文の前從完からず)

有所據

昭和十年五月十五日 印刷 昭和十年五月二十日 發行 孟法師碑用古樹賦 發行所 事樂書道會 印刷人 玉木源郎

終